

## 協働事業プロセス相互検証シート

### 1 事業計画段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・コロナ禍での感染症拡大防止のための運営方法については細かく状況を確認しながら、両者で話し合いベストな運営について共有できた。拠点のひろば相談と利用者支援事業について区と拠点の認識の違いがあった。
- ・新しい事業を計画するにあたり、お互いのニーズのすり合わせや共有、検討が十分ではなかった。
- ・役割分担表を作成する際には目標の確認や実施方法をすり合わせながらすすめていくことが出来た。
- ・妊娠期の支援についてニーズの確認や支援のあり方を区と拠点で検討し、連携しながら、事業計画を作成できた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・毎年書類提出期限に追われ、事業計画について両者でじっくりと話し合う時間が足りないので時間確保の工夫が必要。人事異動等の担当変更では協働や拠点事業に関する認識が違うことがある。
- ・区として現状(データ)を分析し目指すものを示していくことが十分ではなかったため、今後示していきながら拠点と一緒に検討していくことは必要である。

### 2 事業実施段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・コロナ禍で赤ちゃん教室が実施できない時期に当事者ニーズから0歳向け「あかちゃんのへや」を計画立案し両者でスピーディーに事業に繋げることができた。
- ・事業の目標を達成していくために定例会などの機会を通して進捗状況などの確認をしながら今後の実施方法について検討していくことが大切だと共有できた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・月次報告から各事業の進捗確認や今後の注意点などさらに共有する時間を増やしたい。コロナ禍には中止していた中間振り返りを丁寧に実施し、事業の実施不足や修正も確認したい。
- ・事業を実施していく中で今年度の目標をどこまでとしていくか等、見通しを持った検討をしていく必要がある。

### 3 事業の振り返り段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・中学生1dayボランティアは港南区全ての公立中学校へ周知し実施に至ったこと、区内全域にアウトリーチ事業が展開できたこと、妊娠期家庭の切れ目ない支援が母子保健コーディネーターとともに推進できたことなど協働で実施できたことで効果が現れ達成感を感じることができた。
- ・中間振り返りをすることでお互いの考え方の相違に気づいたり、修正することができた。
- ・定例会の持ち方を変えることで常勤だけでなく非常勤スタッフも7事業を意識する度合いが大きくなった。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・お互いの認識に相違があった場合はその都度話し合いを行っていく必要がある。
- ・定例会の場を活用し、効率的に事業の振り返りなどができるような工夫が必要である。